

大阪壊し 橋下流

維新政治を問う

⑦ 公共施設つぶし次々

橋下氏が大阪府政・市政に関わる中で、多くの府民・市民が利用する公共施設が閉鎖、破壊に追い込まれ、貴重な研究機関も統廃合されています。

日本最大規模の施設を閉館

同文学館は、84年に児童文学研究者の鳥越さんが12万点の資料を寄贈するに当たり、大阪府が同文学館を育てる会が

全会一致で採択の請願でも

同文学館を育てる会が

取り組んだ「当面の現地存続を求める請願」が府議会でも全会一致で採択されたにも関わらず、橋下氏は住民と議会の総意を無視して、府立中央図書館への移転を強行しました。

出版社から児童書が出されると同時に、同文学館に寄贈されていたが、移転後には新刊の寄贈が減りました。大阪国際児童文学振興財団と同文学館が、寄贈依頼活動を行い、移転前の状態を回復したと言います。

府が同館研究職員への補助金を減らしたため、現在では2人の研究員が週3日の研究活動しかできないと言っています。

田丸さんは、「毎年、万単位の寄贈がある文学館の資料の保存場所が今後の問題になると思います。鳥越さんや大阪府の心意気に共感し、多くの出版社が寄贈をしてくれています。10年、20年先には文学館の歴史を知る人がいなくなり、協力をしてくれる人がいなくなってしまつのではないかと心配」と語ります。

橋下氏が廃止・縮小した施設(一部)

府立施設	
国際児童文学館	09年度末に閉館、府立中央図書館に移転
青少年会館	09年度末に閉館、長谷工に売却。現在はマンションに
ドーンセンター	機能縮小。DV等女性の法律・医療相談の廃止
総合青少年野外活動センター	10年度末で廃止
おおさか府民牧場	10年度末で廃止
大阪市立施設	
弁天町・城北市民学習センター	13年度末で廃止(市民学習センターは5カ所→3カ所)
伊賀青少年野外活動センター、びわ湖青少年の家	13年度末で廃止(野外活動施設は3カ所→1カ所)
いきいきエイジングセンター	13年度末で廃止
環境学習センター	
大阪南港魚つり園	
大阪南港野鳥園	
舞洲野外活動施設	
大阪北港ヨットハーバー	

橋下市政の今後の廃止計画(主なもの)

市民交流センター	10カ所全廃
子育てプラザ	24カ所→18カ所
老人福祉センター	26カ所→18カ所
スポーツセンター	24カ所→18カ所
プール	24カ所→9カ所
クレオ大阪	北=子育てしている相談センターに統合(15年4月)、西=子ども文化センターを吸収(16年4月)、南・東=他施設との複合化を検討(時期未定)

住民も歴史も無視して

きなくなりました。鳥越さんなど児童文学研究者らと大阪府が、収集研究を続けることを含意して設立された文学館の歴史が無視されています。

書庫スペース限界に近づき

「大阪府からも図書館からもそれ以外の人からも、児童文学の研究機関は必要だと言われている」と語るの、大阪国際児童文学館を育てる会・副常任委員長の田丸信堯さん。万博公園の旧児

年間360万人の利用あるのに

橋下氏は大阪市長になって以降も数々の市民施設をつぶしてきました(表参照)。

大阪市を廃止・解体する「特別区設置に関する協定書」には記載されていないものの、「都」構想を前提に廃止される施設があります。年間約360万人の市民が利用する市民プールがその一つです。

つぶすのは簡単だけれども

ための「都構想ありき」で到底認められない」と問題点を追及しましたが、共産党以外の賛成多数で可決されました。

市民プールで働く加藤麻菜美さん(25)は、「高齢の人が運動や、リハビリのために利用している。『来たら元気になる』『リハビリで足を動かすのが楽になった』と言っています」と話します。

「プールが廃止されたら、生き生きしている人が一気に弱ってしまうのではないかと心配。つぶす

すのは簡単でも、つくるようになったら莫大な費用も掛かる。減らすのではなく、子どもたちがはしゃいで遊ぶことができるプールなど、増やすことこそベスト。利用者や働く人の事をきちんと考えてほしい」

長い年月を掛けて、府民・市民らが築き、守り続けてきた施設を「お金がかかる。効果が薄い。無駄だ」と次々に切り捨てる橋下氏。このままあらゆる施設の破壊を続けられれば、文化も魅力も無い抜け殻のような大阪にされてしまいます。人間らしい自治体に転換することが求められます。



閉館・移転し補助金が削減された大阪国際児童文学館(上)と、廃止される可能性のある市民プール(写真は西淀川区のもの)